

# RSウイルス感染症

## ★病気の説明

RSウイルス感染症は、RSウイルスの感染によって引き起こされる呼吸器感染症です。主に接触感染と飛沫感染で感染が広がり、2歳までにほぼすべての乳幼児が感染します。症状としては、発熱、鼻汁などの軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。多くは軽症で自然軽快しますが、重くなる場合には、その後咳がひどくなる、喘鳴が出る、呼吸困難となるなどの症状が出現し、場合によっては細気管支炎、肺炎へと進展していきます。

12か月未満の乳幼児の入院原因として最も多いのがRSウイルス感染症で、特に生後6か月未満で初めて感染すると重症化しやすいといわれています。

## ★母子免疫ワクチンについて

妊婦に接種することで、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時からRSウイルスに対する予防効果を得ることができます。

## ★予防接種の受け方

接種対象者	妊娠28週0日から36週6日までの妊婦
接種回数	1回

出典（病気の説明）：よぼうせっしゅのはなし(2025年)抜粋 日本ワクチン産業協会

